

スペイン語の完了性を示す属辞の代替について

Una investigación sobre la sustitución del atributivo con el rasgo [+perfectividad] en español

有田 美保
Miho ARITA

0. 本研究の目的

スペイン語の伝統文法において、連結動詞の属辞部分の再生は中性代名詞 *lo* によってなされると記述されているにもかかわらず、実際の言語活動においては、属辞再生が様態の副詞 *así* によっておこなわれている例が少なくない。拙稿は Bosque (1991)において *así* での代替が可能とされている属辞タイプのうち”完了性 (perfectividad)”を示すものにテーマを限定して *así* / *lo* による代替の分布の実態を独自のアンケート結果をまじえ考察するもので、各実現体が代替しうる属辞タイプの特徴をより明白にするための今後の研究の予備調査としたい。

1. 先行研究

今日のスペイン語文法では総じて、連結動詞の属辞部分の再生は中性代名詞 *lo* によってなされるという記述がされている。また逆に、*lo* による属辞再生が可能な動詞のみを連結動詞とみなし、副詞である *así* (またはまれに *tal* および指示代名詞 *eso*) で代名詞化されるような *resultar*, *ponerse*, *hacerse*, *volverse* などのようないわゆる擬似・準連結動詞と一線を画するべきであるとの記述も見られる。

[連結動詞の例]

Este caballero es rico. → *Lo* es.

Los niños estaban contentos. → *Lo* estaban.

La muchacha parece seria. → *Lo* parece.

(Alarcos Llorach 1994: 300)

[擬似・準連結動詞の例]

La película resultó aburrida. → La película resultó *así*.

La película resultó un fracaso. → La película resultó *eso*.

(Molina Redondo y Ortega Olivares 1984: 14)

Nosotros nos hemos puesto colorados. *Así* nos hemos puesto.

Las noches se hacen largas. *Tales* se hacen las noches.

Yo me he vuelto perezoso. *Eso* me he vuelto yo.

ところが実際の言語活動においては、連結動詞の属辞再生が様態の副詞 *así* によってなされている例がごく自然にしかも頻繁に見られている。¹

- 1) La estatua debe ser desnuda, porque *así era* el hombre hace mil años, y *así lo será* dentro de otros mil.

<http://www.aldo-macor.com/esculturas/genesis.htm>

(サイト"GENESIS DE UNA ESCULTURA --- Monumento en honor de CRISTOBAL COLON"より)

- 2) Algunos dirán que es tarde. No es *así*.

<http://www.elpais.es/edi2.htm>

(1998年10月18日付新聞"El País Digital"、記事番号 Nº 898より)

このような実例が観察されるかぎり、われわれ研究者は単に伝統的な規範文法の記述を引き継いで行くにとどまるのではなく、*así* による交替についても調査・言及すべきであろうが、詳細なる解説が期待される最新の文法書²においても、*así* による交替に関して触れてはいるもののその記述はいまだ漠然としたレベルにあり、その現象を起こしうる属辞タイプに関し厳密な意味論的・統語論的基準を列挙するにいたってはいない。

"En cuanto a los adverbios, *ser* copulativo admite *así*, que es, de hecho, una proforma del atributo de cualidad (*Juan es así* (*así* = {*inteligente* / *trabajador* / ... });..."

(Fernández Leborans 1999: 2369)

"El atributo cualitativo puede estar representado por la proforma *así*:

- a. Luis es *así* (*bueno* / *trabajador* / *un hombre afable* /...).
- b. Mi casa no es *así* (*amplia* / *de dos plantas* /...)."

(Fernández Leborans 1999: 2378)

いずれの箇所においても、連結動詞 *ser* が属辞の再生副詞 *así* をとることができることには言及しているが、当該副詞を"特質をあらわす属辞の pro-form の一種である"とすることとどまり、さらに厳密にいかなる"特質"の場合になら可能であるのか、また統語論的にもどのようなシンタグマからなる属辞まで範疇に入りうるのか例文からも判断しづらい。しかも連結動詞 *estar* に関しては記述・例文ともにみられず、この副詞による代替がなされるのか否かもここでははっきりしない。

このような現状において、Bosque (1991)は様態をあらわす副詞である *así* が代替することのできる意味範疇について記述するとともに、言い換えが可能な属詞のタイプをいくつか明記していることで評価できる。様態をあらわす副詞による属辞代替のプロセスにおいては、性質や特徴をあらわす述部がもともと備わった属性をあらわしているかあるいは結果的に獲得されたり…時的に達成されて

いる属性をあらわしているかは問われない、という主張³をたてることにより *así* による再生可能な属辞タイプ規定はかなり明示的になっている。またこの規定は、これら副詞による代替が、通常本来備わっている特性を叙述する動詞である *ser* とも一時的・結果的に獲得された特徴をあらわす動詞 *estar* とも共起しうることと矛盾しない。

拙稿のテーマである完了アスペクトをもつ属辞部分、つまり何らかの過程や行為を経て得られた状態や結果を表す述部の代替に関して、Bosque (1991)は完了性に関し形容詞を下位分類したうえで、動詞から派生し完了アスペクトを持つ<adjetivos perfectivos>と呼ぶものを列挙している。

a) *Lleno, suelto, limpio, descalzo, ...*

b) *Bueno, alto, inteligente, cortés, ...*

Los adjetivos de a) no designan propiedades inherentes de las entidades de las que se predicán, sino resultados de acciones o de procesos a los que se llega o estados en los que se desemboca.

(Bosque 1991: 171)

さらに、これら<adjetivos perfectivos>と起源を同じくする動詞の過去分詞とのあいだの共通性を指摘し、それらはたがいの完了性に起因するとする。それらの共通点としては、

- 1) 動詞 *estar* の属辞となる
- 2) 独立構文が可能 *lleno el vaso, *alta la torre*
- 3) 程度を表す修飾語をとれる *completamente lleno, *completamente alto*
- 4) いわゆる”with 構文”が可能 *con el pelo suelto, *con Juan listísimo*

などが列挙されている。⁴

以上に概略したように、Bosque (1991)においては、副詞 *así* による属辞代替に関しより詳細なる意味論的・統語論的アプローチがとられている一方で、代替可能とする属辞タイプが本来の代替小辞である *lo* によっても同様に再生されうるのか、またその場合、同価値を持つ代替であるのか異質の代替であるのかについては述べられていない。よって次項では、Bosque (1991)において *así* での代替が可能とされている属辞タイプのうち”完了性 (perfectividad)”を示すものにのみ注目して、独自のアンケート結果から *así* / *lo* による代替の実態をあきらかにすることにより、当該先行研究の主張が妥当かどうかを確認するとともに両代替の分布を観察することにする。

2. 調査

2.1. アンケートの結果とその分析

Bosque (1991)の主張を推論すると、“完了性”を含意する連結動詞の属辞部分は *así* による代替が可能であるという解釈が成立する。ところが、完了性をもつ述部を様態をあらわす副詞によって代替しているような例文や引用はなく、主張が今ひとつ具体性にかけていることは否みがたい。また、

ここで *así* での代替が可能とされている完了アスペクトをもつ属辞が、本来の属辞代替の小辞である *lo* によっても同様に代替されうるのか、またそのとき 2 つの代替の分布はどのようなものであるのかについても述べられていない。そこで本項では、この Bosque (1991) の ”完了性” に関する仮定の妥当性を確認すべく実施したネイティブ対象の小アンケートの結果を紹介し、その分析を試みたい。

アンケートの被験者はスペイン語を第一言語とする在日スペイン語教師男女 12 名である。⁵ これら被験者たちに *ser/estar* 文の属辞部分の代替を *así* でおこなっている文、*lo* でおこなっている文を記載したテスト・シートを配布し、文の自然さを評価してもらう。テスト文には Vendler (1967), Lujan (1980), Bosque (1991) にある完了性をもつ形容詞の分類基準などを参考に作成した、あるいはインターネット上より抜粋した *ser/estar* 文を用い、その述部の再生を *así* でおこなったもの、*lo* でおこなったものの 2 バージョンを作り、計 8 文をランダムに配列し、各文の評価をしてもらう。評価は、"全く問題ない" (=3)、"自分ではそうは言わないかもしれないが、誰かがそういうふうに発話しても受け入れてしまう程度" (=2)、"許容できない" (=1) の 3 段階でおこなってもらう。

まず、過去分詞と <adjetivos perfectivos> とで代替の実態を見てみる。テスト文として "roto" (過去分詞)、"desnudo" (<adjetivos perfectivos>) を含む 4 文を用意し、評価を求めた。

- 4) La estatua está **rota**; pero no tendría que **estarlo** cuando la trajeron.
- 5) La estatua está **rota**; pero no tendría que **estar así** cuando la trajeron
- 6) La estatua debe ser **desnuda**, porque **lo** era el hombre hace mil años.⁵
- 7) La estatua debe ser **desnuda**, porque **así** era el hombre hace mil años.⁶

Table A)

	3	2	1
4) rota lo	9	0	3
5) rota así	4	4	4
6) desnuda lo	0	3	9
7) desnuda así	5	3	4

3--- 全く問題ない

2--- 自分ではそうは言わないかもしれないが、誰かが
そういうふうに発話しても受け入れてしまう程度

1--- 許容できない

(5), (7) で *así* での代替に対する許容率にさほど差がない。これは代替プロセスにおいて、Bosque (1991) のいうように二者間には共通に [+perfectividad] という特性があるためであるかもしれない。しかしなが

ら、1への投票がそれぞれ全体の3分の1の割合を占めると同時に3への投票は3分の1どまりであることから、素性[+perfectividad]をもつ述語のasiでの代替に関して Bosque (1991)の記述から期待できるほど決定的な支持は確認できない。

次に、一つの動詞と同族関係にある過去分詞と形容詞からなる同義語においての代替の実態を見てみたい。サンプルとなる文に採用した形容詞"caliente"は、動詞 estar と述部を構成する、程度をあらわす副詞を取れるなどの文法的ふるまいから Bosque (1991)で下位分類された<adjetivos perfectivos>の特徴は持つが、一方で動詞 ser の属辞ともなりえるうえ、副詞 ya のような完了を表すフレーズの補助なしに独立構文および with 構文に現われにくいことから、そこまで完了性の強い形容詞とは言いがたい。この形容詞をそれと同族関係にある動詞"calentar"の過去分詞"calentada"と対比させ asi, lo それぞれの代替を試みた以下の4文についてのアンケート結果を観察する。

8) -Esa sopa ya estará **bien caliente**.

-Pues no lo creo. No **lo** estaba todavía cuando la probé hace un ratito.

9) -Esa sopa ya estará **bien caliente**.

-Pues no lo creo. No estaba **así** todavía cuando la probé hace un ratito.

10) -Esa sopa ya estará **bien calentada**.

-Pues no lo creo. No **lo** estaba todavía cuando la probé hace un ratito.

11) -Esa sopa ya estará **bien calentada**.

-Pues no lo creo. No estaba **así** todavía cuando la probé hace un ratito.

Table B)

		3	2	1
8)	bien caliente lo	11	0	1
9)	bien caliente así	6	3	3
10)	bien calentada lo	6	5	1
11)	bien calentada así	2	7	3

3--- 全く問題ない

2--- 自分ではそうは言わないかもしれないが、誰かが
そういうふうに登話しても受け入れてしまう程度

1--- 許容できない

(9), (11)において、特質[+perfectividad]を持つ属辞に対する asi での代替を認めるインフォーマントはそれぞれ全体の4分の3程度であるが、積極的支持を表す評価3のみを見ると、完了性を含意するときの過去分詞での言いまわしを asi で言い換えた(11)に対する投票は少なく、むしろ[+perfectividad]があ

⁶ 8)は1)として第1項で掲げたインターネット上にみられた *asi* による代替の実例の一部である。7)は属辞 *desnuda* を *lo* で代替したバリエーションである。<adjetivo perfectivo>"desnudo"はここでは例外的に動詞 *ser* とともに述部を構成している。

⁷ "...hay que añadir que hablamos de atributo cuando el elemento, o el grupo de elementos, en cuestión es reproducido junto al verbo mediante la forma pronominal *lo*, y sólo mediante ella, independientemente de su género y número;..." (Molina Redondo y Ortega Olivares 1984: 13)

主用参考文献

- Alarcos Llorach, Emilio (1978) "XIX Aditamento, adverbio y cuestiones conexas," *Estudio de gramática funcional del español*, 3ª ed. 307-341, Gredos, Madrid.
- (1994) *Gramática de la lengua española*, Espasa-Calpe, Madrid.
- Bosque, Ignacio (1991) *Las categorías gramaticales*, Editorial Síntesis, Madrid.
- Bosque, Ignacio and C. Picallo (1996) "Postnominal Adjectives in Spanish DPs," *Journal of Linguistics* 32, 349-385, Cambridge University Press.
- Cornish, Francis (1992) "*So Be It*: The Discourse-Semantic Roles of *So* and *It*," *Journal of Semantics* 9, 163-178.
- Delbeque, Nicole (1994) "Las funciones de *así*, *bien* y *mal*: De la diferencia entre <como bien sabe todo el mundo>, <se vive (bastante) bien en Europa>, <así lo pienso> y <es así>," *Revista Española de Lingüística*, 24, 2, 435-466.
- Demonte, Violeta (1999) "El adjetivo: Clases y usos. La posición del adjetivo en el sintagma nominal", *Gramática descriptiva*, 3, ed. por Ignacio Bosque y Violeta Demonte, Espasa Calpe, Madrid.
- Fernández Leborans, M^a. Jesús (1999) "La predicación: Las oraciones copulativas", *Gramática descriptiva*, 37, ed. por Ignacio Bosque y Violeta Demonte, Espasa Calpe, Madrid.
- Molina Redondo, J. A. de y J. Ortega Olivares (1984) *Usos de SER y ESTAR*, SGEL, Madrid.
- Navas Ruiz, Ricardo (1963) *Ser y Estar - Estudio sobre el sistema atributivo del español*, Acta Salmanticensia, Filosofía y Letras, Salamanca.
- (1977) *Ser y estar: el sistema atributivo del español*, Ediciones Almar, Salamanca.
- Porroche Ballesteros, Margarita (1994) *Ser, estar y verbos de cambio*, Arco Libros, Madrid.
- Serianni, Luca (1986) *Grammatica italiana: Italiano comune e lingua letteraria*, UTET Libreria, Roma.
- 寺崎英樹 (1998) 『スペイン語文法の構造』 東京：大学書林。
- Vendler, Zeno (1967) "The Grammar of Goodness," *Linguistics in Philosophy*, 7, 172-195, Cornell University Press, New York.
- Wierzbicka, A. (1986) "What's in a noun?" (or: How do nouns differ in meaning from adjectives?), *Studies in Language*, 10, 353-389.
- 安井稔・中村順良 (1984) 『代用表現』(現代の英文法10) 東京：研究社。

まり高いとはいえない形容詞"caliente"の asi での再生(9)に2分の1の票が集まった。

以上の点を考慮に入れると、Bosque (1991)の完了アスペクトを持つ述語は様態の副詞 asi によって代替可能であるという仮説は、本テスト結果でその傾向は認められたもののはっきりと確認できたわけではなく、むしろ今回明らかになった実態を反映するためにいくらかの改良の余地があるのではないかとはいえよう。

2.2. 中性代名詞 lo による代替に関する疑問

本調査でむしろ目立ったのは、(4),(6),(8),(10)が示すような lo での代替の許容に対する差である。第1項で述べたように、伝統文法においては連結動詞の属辞部分の再生は中性代名詞 lo によってなされるという記述が一般的であるが、本調査の結果は、その規範が必ずしもいつも当てはまらないのではないかと、という新たな疑問も呼び起こすこととなった。上記の伝統的記述は時に言い換えられ「lo による再生が可能な構成素のみを属辞とみなす」と表されていることもあるが、⁷たとえば(6)の支持率を鑑みればこの言い換えは必ずしも妥当だとは言いがたい。このような問題点から、われわれは先行研究のほとんどない asi による代替だけでなく、lo による属辞の代替についてもさらに調査・研究を試みるべきであるといえよう。

3. むすび

今回の調査結果により、連結動詞の属辞部分の本来の再生辞 lo、また様態をあらわす副詞である asi、これら二つの代替の実現体の分布は相補分布ではなく、両方が許容される場合が多くあるということが明らかになった。Bosque (1991)で掲げられた素性[+perfectividad]はそれ自体決定的に asi を好む基準とはいえず、さらに精練すべき理論であるかもしれないという印象は否めない。また、lo での代替の支持が極端に低い文もあり、伝統文法の記述が一概に当てはまらないのではないかと疑問も浮上した。また asi のもつ照応性に着目して属辞部分の前方照応になる場合、後方照応となる場合など、語順などの問題にも目を向けてみたいと思う。

註

¹ 実際の言語活動のなかでもより自然で無作為なものをとらえたいという意図から、ここで掲げる例はインターネット文書より取り上げてみた。明らかに方言と思われるものは排除した。

² *Gramática descriptiva*, ed. Bosque, Ignacio y Violeta Demonte. Madrid: Espasa Calpe, 1999.

³ "La sustitución de los adjetivos por adverbios de manera es apropiada tanto en las predicaciones en las que se atribuyen propiedades esenciales o características de los individuos, como en las que se denotan estados alcanzados o resultados de procesos." (Bosque 1991: 139)

⁴ 一方、相違点としては、動作主を明示するフレーズの添付の可能(過去分詞)・不可能(<adjetivos perfectivos>)が挙げられている。

⁵ [出身地内訳] スペイン—10人、アルゼンチン—1人、コロンビア—1人